

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV 2009 年度 事業報告書

1、事業実施の報告

OurPlanetTV は、2004 年 10 月に法人化してから、満 5 年を迎えます。その間、メディアカフェの開設やコンスタントな動画配信を実施。徐々に活動の範囲を広げてきました。なかでも一般市民を対象とした映像ワークショップは好評で、小学生から 60 代までさまざまな層の人々が映像作りの楽しさと難しさを体験し、メディアリテラシーを高めています。

2009 年は、こうした過去の活動の集大成として、いくつかの重要な取り組みを行いました。ひとつは、9 月に開催した「TOKYOメディアフェス2009(第7回市民メディア全国交流集会)」です。メディアに関わる市民が全国から集まるこのイベントの実行委員会の事務局を担い、多くのボランティアとともに大会を成功させることができました。なかでも、海外ゲストを招いての基調講演や国際フォーラムなど初の試みを実施。海外のさまざまな先進事例を紹介する場を提供することができました。

このほか、7 月より渋谷区内の公園をテーマに取材を開始。12 月に、「宮下公園～お金で民主主義が買われた日」という 1 時間のドキュメンタリーを配信することができました。スタッフが 5 ヶ月間集中して取材活動を行い、独自の視点で番組を完成させたのは、OurPlanetTV の活動がスタートして以来初めてのことです。これまでは、プラットフォーム作りや制作サポートなどが事業の中心となり、自らが長期取材を行うことは難しいのが実情でした。しかし、インターン生やボランティアなど多くのメンバーの関わりによって、はじめて調査的な報道が可能となったといえます。同ドキュメンタリーは評論家や作家や映画関係者などから高い評価を受け、自主的な翻訳活動も始まっています。

三つ目の大きな取り組みとしてWEBサイトのリニューアルがあります。予定より大幅に公開は遅れたものの、緻密な企画と打ち合わせのうえに、オープンソースによる動画サイトを構築。商用サーバーから、独自のサーバーへの移行が実現しました。カテゴリー別の番組視聴が可能となったほか、SNS的な機能も加わり、今後、メディアカフェのオンライン版として、映像制作者のコミュニケーションの場となる可能性を秘めています。

このほか、2009 年は 8 月の総選挙直前に、民主党とNPOとの間で初の政策会議が開催されましたが、その模様を OurPlaneTV がライブ配信し、大きな反響を得ることができました。アクセスユーザーは 6000 人。このことをきっかけに、NPOの中間支援組織からもライブ配信やメディア戦略に関して、数々の相談が寄せられるようになってます。

課題としては、2008 年度から3年連続して、赤字の収支が続いていることがあげられます。2010 年の収入源の理由は、企業からの映像の受託制作依頼が大幅に減ったことによるものです。わずかな企業に依存する体制からは脱することができたとプラスに捉え、他の非営利団体とのパートナーシップを高めて、収入源を埋める努力をしていきたいと考えています。

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作に係る事業—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいれた番組の制作

2009 年は、レギュラー番組「ContAct」に変化を取り入れようと、インタビューだけでなくVTR構成のものを増やした。特に12月には5ヶ月間を取材に費やしたドキュメンタリーを配信した。一方1月にはイスラエルのガザ攻撃を受けて、YouTube にアップされている世界中のデモ映像をGoogleMap にマッピングするプロジェクトを行い、アーティストやクリエイターからも高く評価を受けた。

ContAct

2009年度は計25番組を配信した。番組のインタビュアーはテーマによって変える方針に改め、若手ドキュメンタリストやメディアアクティビストなど、その話題に適した人、詳しい人などを据えるようにした。好評を得ている。なかでも、「遭難フリータ」の岩淵弘樹監督と京品ホテル・金本正道さんの対談が特に人気が高かった。

■配信番組実績

- 1月 OurPlanet-TV スペシャルインタビュー
- 1月 「長江にいきる」公開直前・監督インタビュー「長江にいきる 乗愛の物語」
- 2月 志葉玲のパレスチナ・ガザ報告
- 2月 『バオバブの記憶』～本橋成一監督インタビュー
- 3月 動物にとっての動物園～Zoocheck Canada のロブ・レイドローさんインタビュー
- 3月 遭難フリーターVS 京品ホテル～岩淵弘樹さん・京品ホテルの元料理長・金本正道さんの対談
- 4月 世界最大級の人権NGO、東京進出！～土井香苗さんインタビュー～
- 4月 路上に生きる子どもたちがぶつける“生命力”小林茂監督インタビュー
- 5月 たった1枚の写真が社会を変えることもある。～広河隆一さんインタビュー～
- 5月 “森は命”～キリマンジャロ山でよみがえる緑～タンザニア・ポレポレクラブ藤沢俊介さん
- 6月 コミュニティメディアは人権だ！AMARCの理事長スティーブ・バクリーさん
- 6月 女性とメディア～マヴィック・カブレラさんインタビュー～
- 7月 持続可能な社会とは？ 鎌仲ひとみさん新作を語る
- 7月 記録することの魅力～前衛美術から携帯写真まで～平田実さん
- 8月 宇宙を制する者が地球を制す！？原爆の日に考えよう～ブルース・ギャグノン氏インタビュー
- 8月 同性愛者の差別をなくせ！～ボリス・ディトリッヒ氏インタビュー
- 9月 メディアフェス直前番組！～市民チャンネルがあったら？～
- 9月 先住民族の人々の声を映像で伝える～カルロス・ゴメスさん&溝口尚美さんインタビュー
- 10月 市民メディアに、新しい時代が到来！～総務副大臣が語る市民とメディア～
- 10月 多様な視点の作品を公共放送で流す～マーク・N・ワイスさんインタビュー
- 11月 人とつながる住まい ～コレクティブハウス～
- 11月 日本版『大人は判ってくれない』～小林政広監督インタビュー
- 12月 宮下公園 TOKYO/SHIBUYA
- 12月 環境活動家として生きる～メラニー・マレンさん～
- 12月 月2万で住宅を！～稲葉剛さんが住宅の貧困問題を語る～

東京ラブレター

2009年度は計12番組を配信した。NPOやNGOの多様な活動を取り上げるとともに、メディア関連のテーマも取り上げた。NPOのための広報セミナー参加者をゲストに迎えることが多く、セミナー参加者との関係を深めることができた。11月からはナビゲーターに平野が加わった。

■配信番組一覧

- 1月 『年越し派遣村から社会を見ると?』: 伊澤信昭さん/派遣ユニオン 執行委員
- 2月 『森と私たちのつながり』ゲスト: 鹿住貴之さん/NPO 法人 JUON NETWORK 事務局長
- 3月 『まちの中の友達～コミュニティフレンド活動～』: 松本智子さん/PAC ガーディアンズ
- 4月 『食が引き出す大きなパワー～給食支援プロジェクト～』: 村松恵子さん/国際開発救援財団
- 5月 『運動が苦手な子の教室』: 山田亜矢子さん/NPO 法人スマイルクラブ
- 6月 『日本一エキサイティングな NGO を目指して』: 岡谷賢孝さん・前川由佳さん
/NGO メータオ・クリニック支援の会
- 7月 『ラオスの子どもに絵本と笑顔を』: 赤井朱子さん・深山知美さん/NPO 法人ラオスの子ども
- 8月 『これからのメディアのあり方を考える!～TOKYO メディフェス 2009～』
: 岩本太郎さん/TOKYO メディフェス 2009 実行委員会
- 9月 『TOKYO メディフェス 2009 報告』 ※白石電話中継
- 10月 『社会問題をグローバルな視点から取り上げる』: 細谷修平さん/メディア・チャンポン
- 11月 『野生の世界は野生のままに』: 塚田 景子さん/NPO 法人 野生生物保全論研究会
- 12月 『メディアを使って地域を生き生きと』: 岡橋 毅さん/地域協働推進機構



WEBサイトのリニューアル

コミュニティ機能のあるサイトを4月にオープンする予定だったが、12月下旬オープンにずれ込んだ。「人権」「障がい」「政治」などのテーマ別に閲覧できるようになり、映像の視聴も改善された。また独自のサーバーを立ち上げた。オンラインのメディアカフェページを立ち上げ、メディアカフェの活性化と、オンライン上でのコミュニケーション形成を目指したサイトとなっている。

<動画配信画面>



<MediaCafe画面>



(2)人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

2009年度は、海外作品の日本語訳はかなわず、日本の短いドキュメンタリーを1本英語化した。また、海外との連携や配給会社とのネットワークが強化されている中、OurPlanetTV 周辺で生まれる作品を海外の映画祭に出品すべく取り組むべきとの声があがり、海外の映画祭に関する調査に着手した。

映像コンテンツの翻訳

インディペンデント系の日本作品を海外映画祭へ出品するため、映画祭の情報収集を進め、リスト化を進めた。「エノアールカフェ～We are living in the park～」の英語版を制作したが、出品までには至らなかった。

おすすめインディーズ映画

2009年度は毎月2本を目標に、優れたドキュメンタリー映画の紹介を行うとともに、インディペンデント系の作品や社会的なテーマを扱ったドキュメンタリー作品以外の作品も紹介した。映画祭の情報も多数掲載した。ウェブサイトに加え、メールマガジン、ニュースレターを活用しより多くの作品情報を発信した。特に優れた作品については、監督インタビューをContActにて積極的に行っていた。

配給会社や監督、劇場とのネットワークを強化し「犬と猫と人間と」を配給した東風はメディアカフェで映画サポーター向けの上映イベントを2回行った。

■紹介映画抜粋

- 『長江に生きる 乗愛の物語』（監督：フォン・イェン／2007／中国）
- 『空とコムローイ～タイ、コンティップ村の子どもたち～』（監督：三浦淳子／2008／日本）
- 『雪の下の炎』（監督：楽真琴／2008／アメリカ・日本）
- 『ユッサー・ンドゥール 魂の帰郷』（監督：ピエール・イヴ・ボルジョー／2006／スイス）
- 『バオバブの記憶』（監督：本橋成一／2009年／日本）
- 『未来世紀ニシナリ』（監督・脚本：田中幸夫／山田哲夫／2006／日本）
- 『遭難フリーター』（監督・主演：岩淵弘樹／2007／日本）
- 『チョコラ!』（監督：小林茂／2008／日本）
- 『台湾人生』（監督：酒井充子／2008／日本）
- 『妻の貌』（監督：川本昭人 2009／日本）
- 『犬と猫と人間と』（監督：飯田基晴／2009／日本）
- 『BASURA』（監督：四ノ宮 浩／2009／日本）
- 『未来の食卓』（監督：ジャン・ポール・ジョー／2008／フランス）
- 『パティ・スミス：ドリーム・オブ・ライフ』（監督：スティーブ・セプリング／2008／アメリカ）
- 『南京・引き裂かれた記憶』（監督：武田倫和／2009／日本） ほか



—市民の情報発信(パブリック・アクセス)に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

2009年度は、年4回にわたる従来のコースに加え、新規の事業として、ビデオ制作者中級向けの映像制作ワークショップDIYビデオのアトリエを企画。映画監督・土屋豊氏を迎え、4月に開講した。従来のワークショップよりも受講料が高いことなども影響し、受講人数の獲得には苦労したものの、結果的には、非常に蜜でレベルの高いワークショップを実施できた。

一方、事業計画に予定されていたパナソニック主催のキッド・ウイットネス・ニュースの教師向けワークショップは、直前に事業がキャンセルとなった。主催側の原因による直前の中止は、スタッフの陣容や財政を含め、様々な計画に影響した。

上記ワークショップの中止を受け、9月には急遽、2日間の編集ワークショップを開催することに決めた。短期間の募集であったがニーズは高く、有意義なものとなった。2010年にも継続していきたい。

ワークショップ全体の参加者は、年齢層は60代から小学5年生までとこれまで以上に広がりを見せている。昨年に引き続き書籍「ビデオカメラでいこう」購読者の申し込みが多かった。ビデオ制作の楽しみを感じ、卒業後も制作を続けたいという声を多く聞く中、卒業生の制作支援や受け皿作りが課題である。

映像ワークショップ

2005年度から継続している映像ワークショップの入門編。冬・春・秋の3回は3ヶ月コース、夏期は3日間集中コースを実施した。

2009年度は全体的に力の入った受講者が多かったが、4月開催の春期ワークショップでは、特に力作が完成した。20代の3名が取り組んだ「画家として生きる」は、毎日のようにメディアカフェを訪れ、朝から夜まで議論を重ね、編集作業をしていた。完成した作品は見ごたえのあるものとなった。

一方、「笠羽さん家の楽語人生」という作品に取り組んだのは女性2名。脳性まひによる運動機能障害を抱えながらも出前落語をしている女性とその家族を追ったもので、制作メンバー自らが横浜で楽語イベントを企画・開催し、その様子を撮影するという積極的な行動をした。どちらの作品も上映会で高い評価を受けた。

また秋期には、ワークショップ参加者としては最年少の小学5年生が参加。外国から来たクラスメイトを取り巻く問題を描いた「5-1の新しい友だち」という作品を制作。子どもならではの素直なまなざしで取材。担任の先生にインタビューを挑むなど、OurPlanetTVのスタッフにも大きな驚きを与えた。

■開催実績

- 1月 受講者数:7名 完成作品「のらしごと」「運動が苦手な子の教室～ゆっくりでいいよ!～」
- 4月 受講者数:9名 「笠羽さん家の楽語人生」「画家として生きる」「けん玉道」
- 8月 受講者数11名「わたしだけの演奏会」「夢をはこぶ東京の蛍」「紙さまの遊び心」
- 10月 受講者数5名「5-1の新しい友だち」「次の尊厳の置き場(仮)」



DIYビデオのアトリエ

これまでの3ヶ月の映像ワークショップを卒業した制作者の受け皿として、新規の事業としてスタートしたビデオ制作者中級向けの映像制作ワークショップ。映画監督・土屋豊氏を迎え、2009年4月に開催。5名の制作者が受講した。このうち2名は昨年のワークショップ卒業生、1名はイタリア人である。

ゲスト講師としては、5月に映画監督の森達也氏、7月に同じく映画監督の野本大氏、9月には映画編集者の大重裕二氏を迎え、より専門的な内容についてのレクチャーを行った。1人1作品を制作・完成を目指し、毎回、講師が作品に対して具体的なアドバイスを行うとともに、他の受講生も他の受講者の作品に対して意見を言うスタイルを敢行。互いに刺激を与え合うことができ好評である。1人で映像制作が出来る環境になったからこそ、ビデオのアトリエ(工房)が必要であると感じている。受講者・国本隆史の「記憶にございません」が、「さらば戦争映画祭」で上映された。課題は広報にさらに力を入れ、受講生の数を増やすことである。

■実績

内容:4月～6月 企画 7月～10月 撮影 10月～12月 編集 参加者5名

制作中の作品:「食卓の肖像～カネミ油症～」 「記憶にございません」。※この他、脳死の家族と臓器移植をテーマにした作品や、イタリア人の目から見た日本の現実とファンタジーを描いたドキュメンタリーを制作中。

編集ワークショップ

キッドウィットネスニュースのキャンセルを受け、編集に特化したワークショップを開催した。ビデオカメラを持っていて撮影はするが、編集が難しくて分からないという要望に応えたもので、9月と10月に計1回のコースで開催。8名が受講し、通常のワークショップの卒業生も、2名参加した。品は「靴教室のある風景」などが完成、1コインサロンで上映した。

(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

2009年は、4月からの9月までの半年間、ピースボートで世界中をまわり、寄港地で証言活動をした被爆者を撮影した国本隆史さんに編集スペースを無償で貸与した。国本さんは7月から上記、DIYビデオのアトリエに参加。作品は、「さらば戦争映画祭」で上映された。

また7月から9月まで、東京メディアフェス2009実行委員会事務局を、メディアカフェの一角に設けた。上記の関係で、8月・9月はメディアカフェの事業を一時的に休止した。

メディアセンター

ドキュメンタリーの短編作品を上映する「1コインサロン」を全14回開催した。会員や制作者などが気軽に集い、映像制作に関して積極的に意見交換できる場となった。完成していない、制作途中のドキュメンタリーを上映することで、編集途中で悩む制作者には様々な意見を聞ける貴重な機会となった。ワークショップ卒業生がその後も独自の取材を続けた「海岸通団地物語」の回は特に好評で、イベント参加者は23名集まった。また、「憲法カフェ」との共同企画なども行い、これまでOurPlanetTVとかかわりのなかった人も多数、メディアカフェを訪れた。

また、その1コインサロンより、勝手連的なミニFM局「アワラジオ」がスタート。月に1回のペースで活発に活動を繰り返している。このほか、機材の貸し出しなどに関連して、4月から「かんたん編集・DVD・作成ビギナーサポート」事業を開始。自宅やオフィスにたまったビデオテープを簡単に編集してDVD化するお手伝いをするもので、人気を呼んでいる。



■1 コインサロン実施実績

- 1月2週 映画「素人の乱」上映&中村友紀監督トーク (15名)
- 2月2週 映像制作ワークショップ作品上映会 (10名)
- 2月2週 映画「幽閉者たち」上映&土屋豊監督トーク (14名)
- 3月3週 「麻生邸ツアー映像の裏側ー表現の自由ってどんなのかな？」(20名) <コラボ企画>
- 3月4週 ゆるカフェ～ビデオ、フード、ドリンク持ち寄りコインレスナイト～ (6名)
- 4月2週 Projectinf the Future : 投げかけていくこと 四方幸子さんトーク (15名)
- 5月4週 ゆるカフェ～ビデオ、フード、ドリンク持ち寄りコインレスナイト～ (9名)
- 5月3週 ただいま制作中！シリーズ「海岸通団地物語」上映&制作者トーク (23名)
- 6月1週 ただいま制作中！シリーズ「記憶にございません」上映&制作者トーク (11名)
- 6月2週 G8サミット直前特別企画！映画「フェンス」&「G8 捉えにいった猫たち」(7名)
- 6月4週「Nスベ『JAPAN デビュー』パッシングを検証する」(参加者14名) <憲法カフェコラボ>
- 10月4週 ゆるカフェ～ビデオ、フード、ドリンク持ち寄りコインレスナイト～ (10名)
- 11月4週 アワプラワークショップ完成作品上映会 (参加者7名)
- 12月3週 忘年会 (参加者20名)

アドボカシー&キャンペーン

ComRights(コミュニケーションの権利を考えるメディアネットワーク)(現在MLメンバー100人)の活動が活発化。2月にシンポジウム「みんなのメディア作戦会議第2弾～任命コミッショナー制度を考える」、6月に「コミュニケーションの権利を考える国際フォーラム」、7月に審議会にパブリックコメント送付。8月に衆議院議員選挙の立候補者にアンケート。9月東京メディアフェス2009でシンポジウムを開催し、就任間もない内藤総務副大臣をゲストに招聘した。



TOKYOメディアフェス2009

東京メディアフェス2009(第7回市民メディア全国交流集会)の実行委員会に参加、事務局を担った。実行委員会は1月から12月まで計12回開催され、約100人のボランティアが関わった。2つの助成金を得ることができ、海外ゲストを招いての基調講演や国際フォーラムなど、有益な内容を展開することができた。

■TOKYOメディアフェス2009実施概要

日時:9月20日(土)～22日(火)、会場:東京ウィメンズプラザ、入場者数:のべ1500人



(5)社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

社会貢献を行う行政・企業・団体への支援は、企業からの依頼が大幅に減。その一方、NGO/NPOや大学など非営利セクターの比率が大幅に増えた。また、日弁連の依頼で、人権大会(11月)で、立川のピラ撒き逮捕事件の現場からライブ中継を実施した。

一方広報セミナーも、例年通り好評を得た。ただ、インターネットを活用した広報に関しては、新たなアプリケーションとして注目を集めているツイッターの活用に触れることができなかったのは、ICT系のフィールドで活動しているNPOとしては残念だった。今後、ソーシャルメディアの活用について、より注意深く動向をチェックしていきたい。

広報セミナー

2009年度は5月に開催した前期の第一回は定員を超える申し込みがあり、会場を変更し20名が参加した。全6回で参加者のべ82名(連続受講も含む)。参加団体から1件が委託制作につながったほか、4名をラジオ番組「東京ラブレター」のゲストに迎えた。

■開催概要

<前期>

第1回 5月12日「プレスリリースの実践とマスメディアの活用」(20名)

第2回 5月19日「インターネット環境を活用した広報」(16名)

第3回 5月26日「動画を活用した広報と個別アドバイス」(15名)

<後期>

第1回 10月13日「プレスリリースの実践とマスメディアの活用」(10名)

第2回 10月20日「インターネット環境を活用した広報」(10名)

第3回 10月27日「動画を活用した広報と個別アドバイス」(参11名)

映像コンテンツなどの受託制作

映像制作は、7月に民主党とNPOの政策会議をライブ配信した影響で、NPOの中間支援組織などを中心にライブ配信の相談が急増している。しかし、多くの団体が予算を確保しておらず、またイベント当日に相談の電話をかけてくる団体などもあり、日本のNPOの映像を利用した広報への意識の低さを痛感した。映像制作に対するコスト負担と準備期間の必要性を広く広報する必要性を感じた。

実績のある団体からの継続的な依頼が多く、多くのNPOから制作に関して信頼をいただいていると感じている。特に専門性の高いNPOと対等に内容を検討できる点が評価のポイントになっているようである。また、最近OurPlanetTVの評判を聞きつけて、電話で映像制作に関する相談をしてくる大学、団体などが増えている。

■企業からの受託制作

マイクロソフト株式会社 : 小学校セキュリティ講座/女性支援プロジェクト紹介B-RollDVD日本語版/
TBS・MSセキュリティイベント撮影/教育ビデオ・日本語版/女性支援プロジェクト紹介DVD3分ver.日本語版/
UPプログラムセミナーDVD化

株式会社メディカ出版 : 小児救急蘇生訓練DVD(2枚)映像制作/救急救命士のための小児救急DVD制作
新生児・妊産婦のための教材DVD制作/助産技術・教材DVD

■非営利団体からの受託制作

WWFジャパン：地球温暖化の目撃者コンテンツ制作(記事・写真・ビデオ各3本)

財団法人国際開発救援財団：ナムザン郡地域総合開発プロジェクト英語版／国立小児病院給食支援プロジェクト報告ビデオ／20周年記念ビデオ制作

NPO法人PACガーディアンズ：活動紹介ビデオ制作

「美し国おこし・三重」実行委員会(三重県)：広報・情報発信カリキュラムテキスト委託制作

財団法人日本環境協会：市民フォーラム記録DVDコピー

NPO法人市民フォーラム21NPOセンター：ライブ配信費

お茶の水女子大学：乳がん啓発教育比較研究用ビデオ制作／国際シンポジウムビデオDVD制作

NPO法人野生生物保全論研究会:活動ビデオ制作費

■講師依頼など

株式会社ファンドレックス：映像ワークショップ講師

パナソニック株式会社：キッズ・ウィットネス・ニュースホットラインサービス／メルマガ原稿／ワークショップ講師
ユナイテッドピープル株式会社:映像制作ワークショップ講師代

Japan for Sustainability:カレッジ講師

日本弁護士連合会:ライブ配信／出演

一 組 織

2009年度よりフラットで自発的な組織作りを目指してきたが、その成果もあり、スタッフそれぞれが持ち味を生かしながら、担当事業を展開している。特にWEB担当者はこの1年をかけて、オープンソースのCMSサイト構築に携わり学んだことで、独自のサイトを作り上げることができた。

また、宮下公園の取材に関しては、OurPlanetTVのスタッフとインターンとで力をあわせ、緻密な取材をこなし、いわばスクープといえるようなインタビューを数々収めることができた。日頃、受託制作など収入に結びつく事業を優先せざると得ない中で、スタッフ一人を2ヶ月の間、独自取材に配置することは勇気のいることではあったが、非常に価値のある経験になった。本人が新たな経験を重ねることができただけでなく、OurplanetTVの存在意義を高め、取材力への信頼などを高める重要な取り組みとなったと思う。

(1)スタッフ

- ◆ フルタイムスタッフ:3人
- ◆ インターン1名:有給1名(1月～6月)、前期5名・後期1名

(2)会員

メディアとしてのカラーを前面に出すべくニュースレターを4月にリニューアルし好評を得ている。インターンやボランティアが紙面づくりに参加しており、番組作りとは一味違う形、よりよい表現活動ができていると感じている。会員獲得のために、全国から配布を協力してくれている支援者も出ている。

- ◆ 正会員:32人
- ◆ 賛助会員:個人／91人(4増)、団体／8団体(1増)

(3)活動の拠点

東京事務所・京都事務所